

Panorama ケーススタディ



Ministerstwo Sportu i Turystyki

ポーランド政府 スポーツ観光省（ポーランド）

産業: 政府機関

ニーズと要件

政府のスポーツ観光省としての課題は、助成金の支給によってスポーツと観光に関する活動を支援することです。助成金プログラムは競技場やスポーツ会館の建設、スポーツイベントの運営など、事務局のさまざまな分野の業務にわたります。助成金はさまざまな基金プログラムを通じて支給され、同省の関連する部署によって実行されます。

それぞれのプログラムにおいて 可能性のある受益者が作成する申請書に基づいて申請を行います。この申請書類はスポーツ観光省のスタッフによる確認作業が行われます。

申請を認める場合は、対応する契約書に署名すると助成金の支給が開始されます。支給期間が長期にわたる場合や分割で支給される場合もあり、申請から決定までの全ての段階で報告書が必要です。またプロジェクトの終了時点には契約を終了します。

ソリューション展開前の状況:

従来は申請書類の作成はワードまたはエクセルで行い、インターネットで配信していました。受益者は申請書類および関連する添付書類に記入後、メールに添付して送信し、同時に署名したものを郵送で送っていました。

省内には申請プロセスとそれに付随するレポートに対応するシステムを導入している部署もありましたが、個別の財務的プログラムだけに対応していたため、省内の業務全体をカバーするために使用することはできませんでした。さらに、申請書のデザインは省内のスタッフによって申請書の様式を直接変更することができないものでした。さらに、プログラムが正しく機能するためには外部業者に業務を外注する必要がありました。

統一した申請サポートシステムが整備されていなかったため、レポート作成には分断された多数のデータソースから手動でデータを作成する必要があり、多大な労力を要しました。

ソリューション:

エンドカスタマーのニーズに対応するため AMODIT System を採用しました。アプリケーションプロセスと省内の業務フロー追加にも対応するため、外部ユーザーの処理のしくみを AMODIT に拡張しました。

もうひとつ AMODIT の重要な機能として、ダイナミックモデリングの応用があります。幅広いニーズやプログラムと部門の違いに対応するマッピングが可能です。

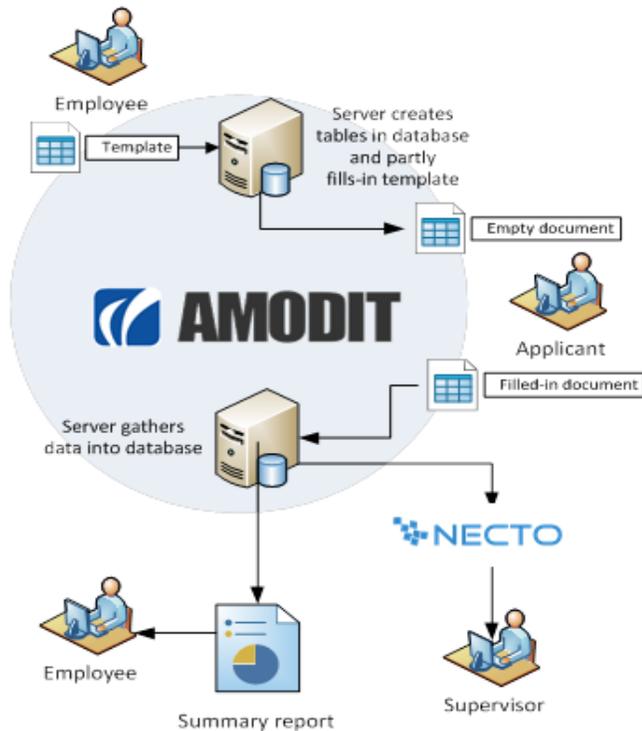
システムは常に省全体のプロトコルに従ってデータを保存しています。さらにシステムは書類の中から省内のスタッフが「重要」とマークした全てのデータを収集することができます。関連事例のしくみにより添付書類やその他連絡に関する書類を簡単に処理することができます。

Necto ベースのビルトイン型の BI ツールがソリューションの重要な役割を果たしています。Necto はマイクロソフトのクラウド対応アプリケーション・プラットフォームである Azure と密接に統合しており、企業内のデータ、インサイト、人をコネクトする業界初のソーシャル対応の BI ソリューションとして、次世代型の BI を代表するツールです。ソーシャルインテリジェンスのパワーを活用して関連性の高いインサイトを迅速かつ効率よく得ることが可能になります。



省内の意思決定者は Necto 上で KPI の検索、トレンドやデータ・アノマリーの分析、課題解決に必要な資源と注意力の効率的な配分が可能です。さらに、Necto の一貫したデータモデリングやメカニズムを活用することにより、時間を要する手動でのデータ処理の必要がなく、複雑なレポートの生成が可能です。

情報と書類のフローは以下の図をご参照ください。



導入効果：

- ▶ マイクロソフト・ワードや エクセル、ウェブフォームとして書式を定義することで業務を簡略化
- ▶ Officeドキュメントに基づいてデータベース内で自動的にしくみを構築するので、ユーザーは技術的な操作の懸念なく申請書の処理に専念できる。
- ▶ 新しい業務手順の学習に関連づけて 事前に手順を定義することで、新しい手順の適用開始を大幅に簡略化。さまざまな手順の違いは必要に応じて自動的に拡張されるため、全ての変更点を組み込む必要がない。
- ▶ Necto はユーザー、アナリストにシンプルかつ直感的な分析環境を提供、高度に進化したコラボレーションやソーシャル機能によって、アクション実行までの時間を大幅に短縮、迅速なアクションを実現。さらに、関連するデータや提案されるコンテンツに自動的にユーザーを誘導し、意思決定が改善。
- ▶ マイクロソフトのクラウド対応アプリケーション・プラットフォーム、Azureとの統合を追加し、スケーラビリティが向上。必要に応じてシステム性能を簡単に拡大できる。
- ▶ 今後開発予定のシステムとの統合など、異なる部門の固有のプラットフォームを一つのツールで対応することが可能。